

保安を確保し 労働環境の改善を

中央生産会議(下期)続報

前号で既報のように六十年度下期の中央生産会議が開かれましたが、組合側からの質問事項と会社側の回答(要約)は次のとおりです。この回答に対してさらに保安確保と労働環境改善の立場から、会社側の対応をたしました。(資料は別表)なお、中央生産会議についで各鉱所の生産会議が開かれています。

※炭務部は八人の定年退職だが必要人員は確保する。病院は一〇八人体制とし、患者数との関係はあるが六十一年度は十人程度の採用を考えている。

※自然発火については四山の高温地帯の対策強化、監視・点検・観測の強化、不要坑道の早期密閉を実施する。

※山はねについては対策を徹底し、さらに石炭技術なども相談して検討する。

※高温については三鉱とも乗り切ったが、有明は通気を改善する。四山はY型通気と二重岩捲きを強化する。来年夏場は実績を考慮して検討する。

※別途提案する。

※有明から三川鉱への炭車輸送に伴い、三川三三〇メートル坑道の混雑が予想されるが、その対策について。

※現行炭車は六プラス一だが、七プラス一となり一方で一三列車増える。人車運行には問題はない。保安対策として、指令センターの指示徹底、急カーブでの徐行運転、離合禁止などを徹底する。

※炭務部と病院の人員計画について。

※坑内適格者であれば十八人を受け入れる。

S60年度下期中央生産会議資料(10月~3月)

S60年度上期掘進実績と下期予算

	予 算	実 績	下期予算
四 山	9,560	9,312.4	9,862
三 川	8,496	9,933.5	10,434
有 明	10,565	10,398.9	11,169
計	28,621	29,644.8	31,465

拡大、覆工を含む(単位:メートル)

S60年度上期出炭実績

	予 算	実 績	能 率	遂 行 率
四 山	860,000	753,103	111.1	87.6
三 川	700,000	594,894	91.5	85
有 明	720,000	732,566	129.5	101.7
計	2,280,000	2,080,563	102.7	91.3

(単位:トン・%)

S60年度下期人員計画

(単位:人)

	上期末	下期末	増減	内 訳 (下期末)				
				採炭	掘進	坑内	坑外	採用
四 山	1,170	1,140	-30	192	138	1,055	85	19
三 川	1,167	1,155	-12	171	104	1,009	146	54
有 明	1,000	987	-13	115	116	923	64	33
本 所	319	306	-13	0	0	2	304	4
計	3,656	3,588	-68	478	367	2,989	599	110

S60年度下期出炭計画

	予 算	能 率
四 山	875,000	134
三 川	715,000	111.6
有 明	745,000	132.7
計	2,335,000	114.6

(単位:トン・%)

S60年度上期負傷実績

	軽傷以上	徴 傷	合 計	保安教育
四 山	20	2	22	43
三 川	10	2	12	75
有 明	9	2	11	45
本 所	0	1	1	0
計	39	7	46	163

(単位:人) (保安教育は保安部あづけで統計外数)

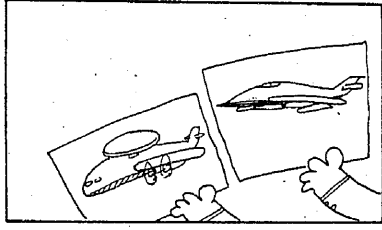
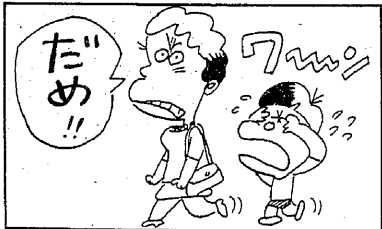
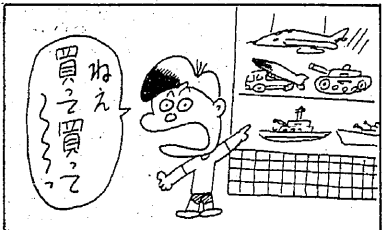
S60年度上期炭塵処理、岩粉散布状況

	人	員	散 布 量	出炭トン当り
四 山	清掃 403 散布 334	737	月当り 195	1.55
三 川	清掃 446 散布 430	876	月当り 161	1.62
有 明	清掃 648 散布 125	773	月当り 208	1.70

(単位:人・トン・キログラム)

あほだら

芝居友衛



定数は正

時のことば

衆議院選挙で「一票の重み」に格差が広がっているため、選挙区の議員定数を正すもの。自民党の「六増・六減案」は六選挙区で議員をへらし、別の六選挙区で増員するものですが、減員になる選挙区で二人区が生じ自民党に有利になるほか、「一区一人の小選挙区制への移行になる」として野党は反対、二人区を作らない別の修正案を出しています。中曽根首相は、衆議院の解散が容易にできるよつ「六増・六減案」を緊急非難的措置として、今臨時国会で成立させようとしています。



馬渡会。も今年は三池闘争25周年ということ、いちだんと話がはずんだ。

緒方さんは大正十一年十月十八日生まれで六十三歳。昭和十二年四月に富浦鉱に入社。測量運搬、内機工(途中二年兵役)として働き四十三歳退職。二十六年から富浦支部臨時情報部員、中央委員を断続的につとめ、三十四年から地域分会長として活動した。住所は大府高槻市深沢町二丁目二十四の二。

三池のたまたかの中で結ばれた信頼の輪は、二十五年後の今も続いている。宴が終わったあとも部屋に集まり話はずみ。

一年おきに開く、待望の馬渡会の時がきた。かつての三池労組富浦支部馬渡地域分会の組合員と主婦会員を中心に、第三回目の近畿周辺に居住する人びとの集まりである。

はるばる大田田から、すでに定年退職している富浦会長の湯村誠男さんが参加。また、前関西不知火会の会長で、すでに亡くなられた山根房光さんの奥さんの照子さんも参加された。

今回は、伊勢志摩の観光地、志摩阿児町の海浜の旅館「さざ波荘」で、九月二十二日から一泊二日を実施した。秋の長雨が案じられたが、男性十三人、女性十三人、あわせて二十六人の参加だった。

湯村さんから三池の現況報告があり、各地からの来賓や祝電が披露されたが、三池闘争中、馬渡地域へ指導オルグとして入ったおられた三重県評議員の福島春雄さん(すでに物故)の奥さんから電話があり、別に料理を注文していただき、それをみんなに伝えると「私たちがお世話になったの」と感動する場面があった。

宴に移り、昭和四十年定年退職が案じられたが、男性十三人、女性十三人、あわせて二十六人の水野さん、四十四年の奥村さん

はじめての参加で、二十余年ぶりの再会を果たして涙を流している人もいた。目的地までの旅の間も積もる話が尽きない。午後六時から宴会を待つ三時間のあいだも歓談がつづき、かつての友人たちの消息が語り合われる。

やがて全員があつまり、今回の馬渡会の経過報告をし、退職者富浦会からの退職者名簿作成についての依頼と、名簿作成費を送料カンパの訴えも了解され、名簿記入とカンパを集約した。

湯村さんから三池の現況報告があり、各地からの来賓や祝電が披露されたが、三池闘争中、馬渡地域へ指導オルグとして入ったおられた三重県評議員の福島春雄さん(すでに物故)の奥さんから電話があり、別に料理を注文していただき、それをみんなに伝えると「私たちがお世話になったの」と感動する場面があった。

宴に移り、昭和四十年定年退職が案じられたが、男性十三人、女性十三人、あわせて二十六人の水野さん、四十四年の奥村さん

第二回馬渡会で 緒方 進

あれから二十五年 (8)